



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑩

感謝の心は 20 年の時を経て



金沢 R C
(第 2610 地区 石川県)

国際奉仕委員長
松崎 充意 さん

思いがけない訪問者

テムラック・チャオさんから「訪問したい」とクラブ事務局に連絡が来たのは 2012 年 7 月。チャオさんは、私の入会前、今から 20 年以上も前の米山奨学生です。

「へえ、そんなに昔の米山奨学生が？ タイからわざわざ？」。思いがけない訪問の打診に、ちょっとしたざわめきが広がりました。これまで、元青少年交換学生が再来日して訪問してくれた例はありましたが、元米山奨学生の訪問は、ほとんど記憶にありません。

数日後、チャオさんが例会場にやってきました。私も含め、ほとんどの会員が会うのは初めてです。卒業後、カウンセラーやその家族には時々連絡をしていたようですが、カウンセラーが体調を崩してからは、チャオさんの消息を知る会員はほとんどいませんでした。

話を聞くと、チャオさんは奨学生時代、「帰国後はロータリークラブの会長になる」と宣言し、約束通り、タイのポーサテッドナコンシー・ロータリークラブ (RC) の会長に就任。それを知らせるため、金沢に来たと言うのです。こんなに長い年月、われわれの知らないところで、彼の心の中にロータリアンとの約束が生き続けていたのか……。そう思うと、当時を知らない私も、胸が熱くなりました。

再び動きだした二国間の交流と活動

この訪問を機に、チャオさんとわれわれの時計の針が再び動き出し、チャオさんを振り子として、ポーサテッドナコンシー RC と金沢 RC との交流が始まったのです。

2013 - 14 年度には、タイの人たちと計 2,000 本のマングローブの苗を植樹。14 - 15 年度の金沢 RC 創立 80 周年記念式典には、チャオさんを含め、タイから

会員ら 8 人が出席。15 - 16 年度はグローバル補助金を活用し、タイの 5 つの小学校に浄水器を設置するため、家族を含め総勢 20 人が渡航。かつて、国際奉仕活動にこれほど多くが一齐に参加したことはなく、チャオさんの人柄と熱意がわれわれを動かしているのだと感じています。

海外のクラブとの事業には困難が付きものです。スケジュール通りに物事が運ばなかったり、双方の認識に食い違いが生じたり。そんな時、日本語だけでなく、日本の社会習慣を熟知するチャオさんが間に立って尽力してくれたおかげで、浄水器寄贈の際には、タイの子どもたちのうれしそうな笑顔を見ることができ、先生や地域の人たちから口々に感謝の言葉をもらいました。これは何にも代え難い幸せな体験でした。チャオさんがいなければ、チャオさんが訪ねてきてくれなければ、実現することはありませんでした。

国際交流はやはり素晴らしい。交流の中で互いのアイデンティティーを知り、相手の国や文化を大事に思うきっかけとなります。ここ数年、金沢 RC は世話クラブを務めていませんが、もっと米山奨学生と交流したいという思いが強くなってきました。米山奨学生は、ほとんどが大学生、大学院生であり、母国のことや彼らの研究について語り合うなど、大人同士の付き合いができることも大きな魅力の一つです。

われわれは今後もチャオさん、ポーサテッドナコンシー RC と末永く付き合っていきたいと願っています。ありがとうございます。そして、これからもよろしく。



子どもたちの笑顔に迎えられたタイへの訪問

元米山奨学生からの連絡がない、カウンセラー退会後は消息がわからないといった事例をよく耳にします。彼らは会員との思い出や感謝の気持ちを忘れてしまったのでしょうか。タイ出身の元奨学生テムラック・チャオさんは卒業後、世話クラブとの連絡をほとんど取っていませんでしたが、20年後、「ロータリークラブの会長になる」という約束を果たし、世話クラブに報告にやってきました。絆という名の時計の針は、再び動き出したのです。



米山学友
テムラック・チャオさん

出身：タイ
奨学期間：1993 - 95
学校名：金沢星稜大学

感謝と後悔、そして新たな喜び

米山奨学金の面接を受けたのは1995年。「卒業後、何をしますか」と聞かれ、「故郷に戻り、役に立つ人間になりたい」と答えたのを覚えています。面接官だった金沢RCの松本静夫さんは私のカウンセラーとなり、身元保証人にもなってくれました。素性もわからない留学生の私を信頼してくれたことが、ただただうれしく、卒業後は必ず恩返しをしよう、自分もロータリーに入り、会長になろうと誓いました。

卒業後、オーストラリアで情報技術を学び、2000年にタイへ帰国。日タイの懸け橋になりたかった私は、両国の事業投資に関する交渉や、日本企業へのコンサルティング業務などを行う会社を設立しました。

2006年、ついに念願のロータリアンになりました。所属クラブは第3330地区のポーサテッドナコンシーRCです。12年7月、クラブ会長に就任した時、真っ先に思い浮かんだのは金沢RCのことでした。すぐに日本へ行きましたが、体調を崩していた松本さんに会うことはできず、そのまま永遠の別れとなりました。

日本の父親だった松本さんに、最期にお礼を言えなかった後悔が、今も心に残っています。

一方で、来日を機に金沢RCと協同で奉仕活動を行う機会を得ました。浄水器設置事業では、タイの子どもたちが安全な水を飲めるようになり、保護者も先生も大変喜んでいました。そんな姿を見るのが私の喜びですし、日本の人たちの気持ちをありがたく思います。

日本の良さをタイの若者たちへ

また、タイ日人材育成協会の会長として、この10年間で350人ほどの学生を日本に送り出しました。受け入れ先の一つ、福岡県の柳川高等学校とは昨年5月、「柳川高校附属タイ中学校」を設立しました。日本語はもちろん必修科目です。私はタイ側の統括責任者として、一人でも多くの若者を日本に留学させたいと思っています。目標は東京オリンピックの2020年、日本へ1,000人の留学生を送ることでです。

金沢RC、そして米山奨学金のおかげで人生が開けました。人間は共に助け合わなければならないことを、日本で学びました。これからも日本の良いところをタイに広め、若者を育てていきたいと思っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



韓国米山学友会の発展に期待 —— 日本人留学生への奨学支援もスタート

11月19日、ソウル市で韓国米山学友会の定期総会が開かれ、学友約70人のほか、小沢一彦当会理事長や第3650地区の朴虎君ガバナールから韓国のロータリー関係者、台湾米山学友会、関西米山学友会役員などが出席しました。韓国米山学友会では昨年5月から韓国の大学で学ぶ日本人留学生2人を奨学支援しており、その奨学金授与式も行われました。学友からは「米山との絆が深まるのはうれしい」「多くの人の支援を得て、学友会が発展していけると感じた」など、喜びと期待の声が聞かれました。今後は会員を増やし、役員が交代しても活動が継続できるよう組織のシステムを整え、会員同士の連携・連帯を強めていく方針を掲げています。

